令和８年度　麻生区市民提案型協働事業　審査委員会　議事要旨

１　開催日時　令和８年４月２０日（月）１４時００分～１７時３５分
２　開催場所　麻生区役所４階第１会議室
３　出 席 者　［委　員］　俵委員長、大和田委員、小林委員、竹迫委員、小佐々委員
　　［事務局］　田島課長、林課長補佐、川口係長、田中主任、髙木職員、嶋田職員
４　傍 聴 者　なし
５　議　　事
（１）審査委員会事前説明（１３時４５分～１４時００分）
・事務局から進行及び提案事業の内容について説明

（２）公開プレゼンテーション（１４時００分～１６時１０分）
・団体からの発表
・委員からの質疑応答

①　しんゆり林間学校（しんゆり林間学校）

【講評・主な質疑応答】
（委員）
提案書では実施期間が令和 9 年 3 月 31 日までとなっているが、正しい期間は 3 月 2 日までとなるため、イベントの開催時期等で調整する必要が出てくる可能性がある。
どのようにイベントの広報を行っていくのか。
（提案団体）
イベントの開催時期については、イベントシーズンや気候面との兼ね合いから 10 月と 3 月を予定していたが、改めて検討を行う。
出展者や参加者への周知は、SNS での発信を予定している。
（委員）
事業見積書に人工芝と遊具の積算がされていないが、イベント開催時のみ人工芝を敷くのか、またどちらも団体が既に持っているもので対応できるため積算されていないのか。
遊具の破損によるけがに備えて保険に入るとは思うが、遊具の安全性についても行政と連携をとりながら進めていく方が良い。
参加者にアンケートを取るなどしてイベントの感想を共有してもらいたい。
（提案団体）
人工芝については既に持っているものを使用する想定だが、使用できない場合も含めて団体内で改めて検討する。
遊具はあくまで一般の方が製作したものであるため、イベントで使用するにあたっては団体内で検討を行いながら進める。
参加者の声については、次年度以降の事業も見据え、集めていく予定。

（委員）

他の市民団体や大学との連携について、具体的な連携先の案はあるか。

自走に向けた方針として今後は協賛金の募集を拡大するとあるが、具体的なアプローチ先の案はあるか。

公園の維持管理は地域課題になっているので、愛護会のような公園の維持管理を行っている団体と連携を行い、イベントでのパネル展示などで団体紹介等を行ってはどうか。

（提案団体）

麻生区の文化資本・社会資本はポテンシャルが高いと考えているため、まずは麻生区内の近くの市民団体や大学から連携先を探していく予定。その他にも事業のコンセプトに合うような造園、緑、農業分野の専門性の高い団体にもアプローチしていきたい。

（委員）

雨天の場合のイベント実施方法について案はあるか。

しんゆり林間学校のメンバーは今後増やしていく予定があるか。

（提案団体）

雨天の場合の対応は改めて検討する。

事業のコンセプトに共鳴してくれる人、ボランティアに参加希望の人への門戸は広げる予定。

（委員）

提案事業をどのくらいの期間継続していこうと考えているか。

芸術・文化の面で、新しい取組を行う予定はあるか。

（提案団体）

事業は可能な限り長く継続したいと考えている。

アコースティックギターやフルートの演奏といった、イベントの趣旨に合うリラックスできるような音楽や映像、アートの提供など公園で行うイベントならではのコンテンツを模索していく。

② 高齢者の心身機能向上と社会参加を促す　エンターテインメント型介護予防プログラム「おしり体操！」事業（株式会社 OSHIRI）

【講評・主な質疑応答】

（委員）

地域課題の解決という観点からすると、次年度以降の事業の方向性にある地域ボランティアや担い手の育成は重要だと感じる。今年度の取組もしくは年度ごとの取組での進捗度のイメージはあるか。

（提案団体）

活動の様子を SNS で発信し、認知度の向上に伴い、活動に興味をもった方を対象に活動に協力してもらい、自身以外でもおしり体操を行うことができ、それを広げていけるような人材の育成を来年度に向けて行っていきたい。

（委員）

活動への協力というのは、活動の補助を行うというイメージか。

（提案団体）
施設での具体的な活動内容や説明内容等を伝え、活動メンバーの一員として参加してもらう。
（委員）
活動を手伝ってもらうというのが現実的かもしれないが、運動したいがその機会がないという課題があるので、そのような方が自主的に行えるプログラムの作成やそのプログラムを補助できる人材の育成という観点があるとより良い事業になるのでは。
（委員）
事業を受け入れる施設としては、体操を行ううえで公的な資格を取得しているかを気にする可能性がある。講師は団体独自で育成しているのか、もしくは公的な資格を取得しているのか。
収入の中で参加費等が計上されていないが、費用は参加者や誘致した施設が支払うのか、もしくは奉仕活動として収入としては考慮しないのか。
腰痛や関節痛などをもつ方にも配慮した内容も用意しているのか。
（提案団体）
資格を有しているのは私のみ。有資格者に活動を限定してはいないが、レクリエーションとしての要素がメインであるため、資格を有していなくても動きの仕組みを理解していれば問題なく活動できる。
費用を施設へ請求することで活動が成り立たなくなるのを防ぐため、基本的にはボランティアベースで活動している。
腰痛等をもつ方は無理しない範囲での活動をしてもらう。体を動かすのが難しい方でも、活動場所に来てもらうことで、非日常感を味わってもらうことに意義があると感じている。
（委員）
今の事業内容は、目的をコミュニティづくりや介護予防に参加していない男性を外に連れ出すこととするのであればターゲット層は正しいが、介護予防を目的とするのであればターゲット層が違うのではないか。
団体の通常の活動と今回のような地域貢献活動で通帳を分けることを検討しているか。
男性は個人でデイサービスに参加していることが比較的多い印象。男性の参加者に健康になったと実感できるまで参加してもらうのは難しいのではないか。
（提案団体）
介護施設での活動は、身体機能の改善よりは意欲向上や前向きな行動変容のきっかけづくりを目的に行っている。
通帳を分けることについては今後検討していく。
男性が複数人でも参加できるような内容を協働の中で検討していく。
（委員）
川崎市には「かわさき健幸福寿プロジェクト」という事業があり、そちらの方が今回の提案事業と方向性が近いように感じた。
（委員）
おしり体操がメインというよりは、活動の場に参加して、非日常を体験して意欲や前向きな気持ちを引き出すことが目的で、おしり体操はその副産物という位置づけのプログラムだと感じた。おしり体操の比重を落とした出し方でも良いように感じた。

活動場所は同じ場所で継続的に実施するのか、それとも異なる場所で単発実施するのか。また実施回数も増える可能性はあるのか。

（提案団体）

実施場所や継続性については柔軟に考えており、同一施設での継続も、複数拠点での展開もあり得る。また、回数も増える可能性はある。

（委員）

協働事業のため、できるだけ多くの方に参加してもらった方が良いと思う。施設で行う際は、その利用者のみを対象とするのか、それとも利用者以外の方にも広報を行うのか。

（提案団体）

利用者のみを対象とする場合も、利用者以外にも広く募集する場合もあり得る。数年前には麻生老人福祉センターで講座を行った実績がある。

（委員）

事業の広報は、活動する施設によってやり方が変わるということか。

（提案団体）

そのような想定である。

③　乙女文楽交流公演～地域の芸能に触れてみよう～（公益財団法人現代人形劇センター）

【講評・主な質疑応答】

（委員）

子どもたちに届けたいという意図や、教育的意義の高さは評価できる。

財団としての資金がある中で麻生区の市民提案型協働事業を選んだ理由はあるのか。

（提案団体）

過去に川崎市内の他区で市民提案型協働事業を行っていることに加え、芸術のまちづくりに力を入れている麻生区で事業を行うことで、より幅広く魅力の発信ができると考えた。また、学校に特化した取組はまだ十分に行えていないため、今回は学校に特化した内容で提案した。

（委員）

小中学校での事業実施にあたって、休日に公演を行う想定でいるのか。

公演を行う学校数として 6 校を想定しているが、応募が多かった場合と少なかった場合の対応をどのように考えているか。

小中学生が事業体験後にも関わることができるような取組について、希望者が参加可能な子ども教室修了生の上演以外にも具体的なアイディアはあるか。

（提案団体）

各校でカリキュラムがある中で、観劇授業として公演を行ったことはある。また、学校と調整を行い、国語や社会の授業に組み込んだり、キャリア教育として行った実績もある。

これまでも多くの学校に応募してもらい、学校ごとの状況を確認して対象校を決めてきた。応募が少ない場合の対応については、今後の課題として検討していく。

継続的な関わりとしては、公演へのスタッフとしての参加や、実際に人形を作成することにつながったということがある。団体との直接的な関わりに限らず、子どもたちの中に芸術への興味、関心が芽生えることを期待している。

（委員）

行政との連携として、校長会への参加以外に検討していることはあるか。

麻生区ならではの取組として、他区では展開していない他の文化団体との連携などを次年度以降でも考えているか。

（提案団体）

校長会での呼びかけのほかに、小中学校への個別の働きかけができればと思っている。

他団体との連携についても今後検討し、連携の中でより魅力的なプログラムをつくっていきたい。

（委員）

小中学生が自分から芸術に触れる機会はなかなかないため、良い取組だと感じた。

学校以外で麻生区内での公演実績などはあるか。

（提案団体）

修廣寺で一般の方に向けた公演を行ったことがあったが、高齢者の参加が多い一方で、子どもの集客という面で課題に感じた。

（委員）

公演へのボランティア参加は中学生などの年齢層が高めの方が多いのか。

事業を行う中で、学校以外ではどのような団体とつながることができるのか。

応募が少なかった際や来年度の取組として、老人いこいの家や障害者施設などを対象とすることで多くの方と交流を図ってはどうか。

（提案団体）

ボランティアとしての参加は主に中学生以上を対象にしている。

学校を対象とする中で、保護者やPTAに声掛けを行ってつながりを広げていきたいと考えている。

一度の公演に多くの方が参加可能という点で、学校を対象にした面もあるが、多世代交流についても重要な視点だと考えているため、事業を行う際に頭に入れて実施していく。

④ 新百合ヶ丘マインクラフト化計画（第2期）（一般社団法人サステナブルマップ）

【講評・主な質疑応答】

（委員）

助成金があることで参加者の負担軽減につながっていることに加え、2年目として成果物の発信を行う見込みで良いか。

（提案団体）

行政と連携し、まずは区民の方に向けた事業を行っていきたい。

（委員）

成果物の発信方法について、区HPへはどのような形（動画・データなど）で掲載されるのか。

教育版マインクラフトのアカウント料の値上げに伴い、参加者の負担は以前と比較してどのように変わったのか。また、事業の中で予算を縮減した部分はあるのか。

（提案団体）

宮前区のHPには成果物データを掲載しており、教育版のマインクラフトのアカウントがあればダウンロードが可能。麻生区でも同様に成果物のデータを掲載する予定。

予算については、2年目ということもあり圧縮できる部分や自身の作業で軽減できた部分もある。

（委員）

参加者として4～50名を見込んでいるとのことだが、新規の参加者か。

小学生が事業に参加するきっかけ、また親が情報を得る機会はどこにあるのか。また、経済的事情で参加が難しい家庭もある。

（提案団体）

継続して参加する方も含めての人数として見込んでいる。

昨年度はタウンニュースへの広告の掲載や、区内の小学校へ直接声掛けを行った。参加費については分割払いも可能。HP へのデータ掲載は、それでも参加が難しい家庭へ触れてもらう機会を提供したいという意図もある。

（委員）

提案事業を行う中で、新百合ヶ丘駅北側のまちづくりに若い世代の意見をどのように取り入れるか、具体的なイメージはあるか。

（提案団体）

アイディアの絶対数が多ければ、取り入れられる可能性が高まることは参加者に伝えている。参加者の一人から出た意見が、誰かの耳に入り、発展していけば良いのではと考えている。

⑤ 麻生区地域連携“かわさきワインプロジェクト”（特定非営利活動法人岡上アグリ・リゾート）

【講評・主な質疑応答】

（委員）

岡上小学校との連携や、田園調布学園大学との連携で障害者就労支援につなげたところは評価できる。

予算の中で紙媒体の広報物に多く割いているが、小学校への広報ということを踏まえているのか。また、成果物にも市民提案型協働事業であることを周知のためにも入れてもらいたい。

（提案団体）

来年度以降の自走を見据えて大学生とも方向性を話しているが、今年度は紙媒体を中心にしたい。紙媒体での広報物を作ることは、大学生にとっても勉強の一環で、意義があると感じている。今年度は外部に依頼して、次年度はその広報物を見本に学生自身で作成することを想定している。

（委員）

小学生に記念品を渡すことで、活動に参加したことが形として残るので、良い取組だと思う。

ワインづくりの過程で生まれた搾りかすなど、一見使えないようなものを再利用して新たなものを

作る取組は考えているか。

（提案団体）

以前もぶどうの搾りかすをバスソルトづくりに利用したり、ぶどうのおりをバームづくりに利用したりしたことがある。ワインを飲むことができない年齢層の方も楽しめるような内容にしている。作成した商品の販売場所として市民館などの区の施設が使用できない現状なので、販売できるようになれば事業がさらに進めやすくなると感じている。

（委員）

事業の対象が岡上小学校まで広がった点は評価できる。

事業に参加する小学2年生と6年生は一緒に活動に取り組むのか。異なる学年の生徒が一緒に活動することにも良い点があるのではと感じた。

岡上でワインがつくられていること自体のPR方法について、検討していることはあるか。

（提案団体）

区内に多様な大学があることは麻生区の魅力だと思っており、大学生が農業に関わって、成果物を発信することが広報の方法として効果がとても大きい。他の都市にも魅力的に映っている。

また、農業に関わる方を広げていくという面では、岡上地域の子どもたちにシビックプライドを醸成してもらうことも目的としている。その他にも岡上地域で農業に取り組む方を増やすための活動もしており、今年度からは川崎市都市農業振興センターと連携してワインの勉強を年間 120 時間すると土地が借りられる制度が始まる。岡上ヌーボー解禁イベントには農業に興味がある方が多く参加するので、参加者と大学生の交流などの相乗効果も期待できる。

岡上小学校の生徒には、4月末から月に1,2回農作業を行ってもらう予定。授業の一環として行うため、カリキュラム上一緒に活動できる時とできない時がある。他の学年は農業に触れる機会がカリキュラムにあるため、今回は小学2年生と6年生を対象にした。8月に行うぶどうの収穫では、保護者や大学生にも参加してもらう予定。

（委員）

今年度は小学生も対象にしており、事業の広がりが感じられた。また、記念品の作成も小学生にとっては貴重な経験になると思う。

区の施設での商品の販売やアルコールの取扱いについては、多くの方から販売希望があった場合の対応などが難しいと感じているが、今後の課題としたい。

以上